

福祉健康科学部

所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 心理学コース・助教			
氏名	古長 紗恵 (Kocho Sae)			
取得学位	臨床心理修士 (専門職) 、九州大学、2019年3月			
SDGs目標	 3 すべての人に健康と福祉を	 4 質の高い教育をみんなに	リサーチマップ (researchmap) ※上記をクリックしてください	

研究分野	臨床心理学
研究キーワード	発達障害支援、自己理解、青年期、ボンディング、乳幼児
研究内容・研究業績・アピールポイント	<p>●青年期自閉スペクトラム症者の自己理解についての研究</p> <p>青年期は自己理解を深めることが重要な課題となります。自己理解は他者との対話や関係性の構築の中で育まれる側面が大きいです。対人関係やコミュニケーションに困難が生じる自閉スペクトラム症の人たちは、自己理解が深まりにくかったり、否定的な自己評価に偏りやすかったりすることが示されています。自閉スペクトラム症の人たちの自己理解のあり方をより本人の主観的な体験から明らかにし、支援方法を検討するために、写真を使ったインタビュー技法であるPhoto elicitation interviewを用いて、研究を行っています。</p> <p>●乳児期の子どもを持つ母親のボンディングについての研究</p> <p>ボンディングとは、養育者が子どもをかわいい、愛おしいと思う特別な情緒的絆のことを指します。従来、育児支援においてはハイリスク家庭へのサポートや、すでに不安、問題が生じている家庭への介入を中心に検討されてきました。しかし、現時点では問題が生じていない家庭に対しても、子育てが楽しいと思えるポジティブな要素を増加させることは、広く虐待や育児不安への予防につながると考えられます。本研究では、ポジティブな要素としてボンディングに着目し、ボンディングを高めるプログラムの開発を目指しています。</p>